

2 火災編

火災概況

出火件数及び種別 <前年と比べ9件減少>

件数

平成30年の出火件数は56件で、前年と比べ9件減少し、過去10年で最も少ない件数となった。

種別

火災種別ごとに見ると、「建物火災」が44件で全体の78.6%を占め、前年と比べ9件減少した。

「車両火災」は9件で前年と比べ2件の増、「その他の火災」は3件で前年と比べ1件の減、また「林野火災」は前年1件であったが、本年は発生しなかった。

損害額 <住民1人当たりの損害額は394円>

火災による被害額は1億3,764万6千円で、前年と比べ5,740万9千円(約71.5%)増加した。これは住民1人当たりでは394円、1日当たりでは約37万7千円であった。

焼損床面積 <前年と比べ3,043㎡の増> 焼損表面積 <前年と比べ32㎡の減>

火災による建物の焼損床面積は4,611㎡で、前年と比べ3,043㎡増加した。
焼損表面積は153㎡で、前年と比べ32㎡減少した。

死傷者

火災による死者は4人と前年と同様で、発生した死者は建物火災によるものが3人、その他が1人であった。死亡に至った経過は、「不明」が3人、「放火自殺」が1人となっている。

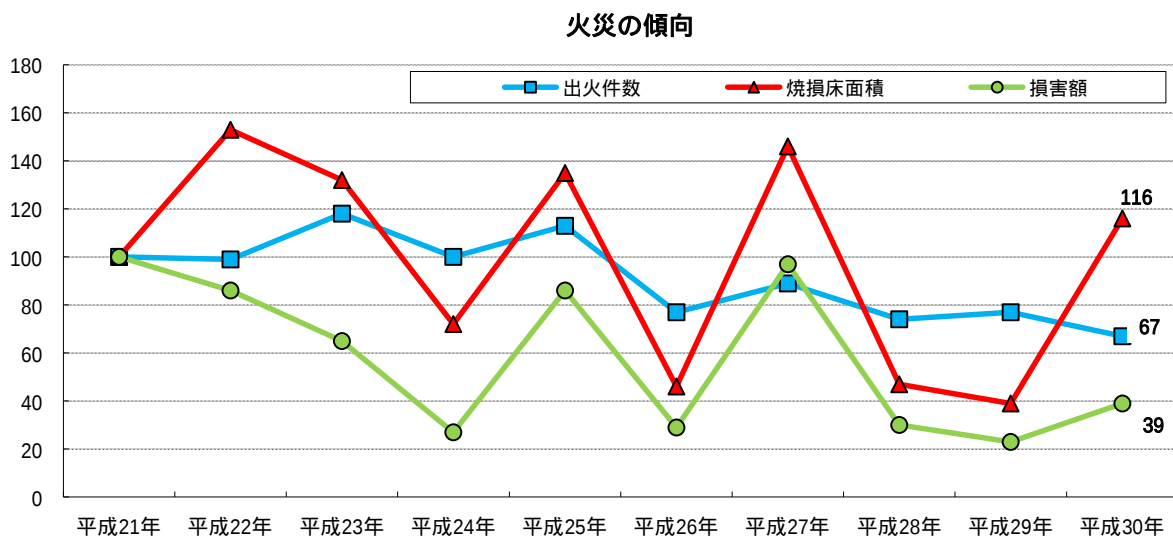
火災による負傷者は16人で、前年と比べ14人減少した。

出火原因 <1位はストーブ>

出火原因の第1位は「ストーブ」で6件、第2位は「放火・放火の疑い」で5件、第3位は「たばこ」で4件となっており、以下、「煙突・煙道」「排気管」が各3件となっている。

(指数) 平成21年 = 100

火災の傾向



火災発生状況（前年比較）

年			平 成 30 年	平 成 29 年	増 減
区分					
出火件数	合 計		56	65	9
	(爆 発)		-	-	-
	建 物	小 計	44	53	9
		全 焼	16	13	3
		半 焼	8	5	3
		部分焼	10	21	11
		ぼ や	10	14	4
		林 野	-	1	1
	車 両		9	7	2
	そ の 他		3	4	1
焼 損 面 積	建 物	床面積(㎡)	4,611	1,568	3,043
	物	表面積(㎡)	153	185	32
	林 野(a)		-	3	3
損害額 (千円)	合 計		137,646	80,237	57,409
	建 物		94,248	67,765	26,483
	収 容 物		41,790	8,552	33,238
	林 野		-	1	1
	車 両		1,332	3,268	1,936
	そ の 他		276	651	375
	爆 発		-	-	-
焼 損 棟 数(棟)			92	83	9
り 災 世 帯 数			52	47	5
り 災 人 員			104	99	5
死傷者数	合 計		20	34	14
	死 者		4	4	0
	負 傷 者		16	30	14
	30日死者		-	-	-
出 火 率			1.6	1.8	0.2
非 火 災 件 数			649	719	70

出火率 = 人口1万人当たりの出火件数を示す。

市・道・国の火災発生状況比較

【年】

区分		旭川市消防本部	北海道	全国
出火件数 ()内は建物火災件数		56 (44)	1,684 (1,061)	37,900 (20,703)
損害額(千円)		137,646	2,989,731	114,784,533
焼損面積	建物焼損床面積(m ²)	4,611	58,551	1,035,896
	建物焼損表面積(m ²)	153	5,310	120,754
	林野(a)	-	5,829	60,514
焼損棟数(棟)		92	1,375	29,871
り災世帯数		52	823	17,966
死傷者	死者	4	68	1,422
	負傷者	16	289	6,022
1日当たりの出火件数		0.15	4.61	103.84
時間と出火		156時間25分に1件	5時間12分に1件	13分に1件
1件当たりの損害額(千円)		2,458	1,775	3,029
建物火災1件当たりの焼損床面積(m ²)		104.80	55.18	50.04

出火原因

【年】

原因	順位	1	2	3	4	4	6	6	6	6	6	6	12	12	12	12	12	—	—
火災種別		ストーブ	放火・放火の疑い	たばこ	煙突・煙道	排気管	こんろ	電気機器	電灯・電話等の配線	電気装置	配線器具	焼却炉	内燃機	取灰	ボイラー	火あそび	マッチ・ライター	その他の	不明・調査中
合計	56	6	5	4	3	3	2	2	2	2	2	2	1	1	1	1	1	3	15
建物	44	6	4	3	3	-	2	2	2	2	2	2	-	1	1	1	-	1	12
車両	9	-	-	-	-	3	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	2	3
林野	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
その他	3	-	1	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-
爆発	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

「非火災」発生状況

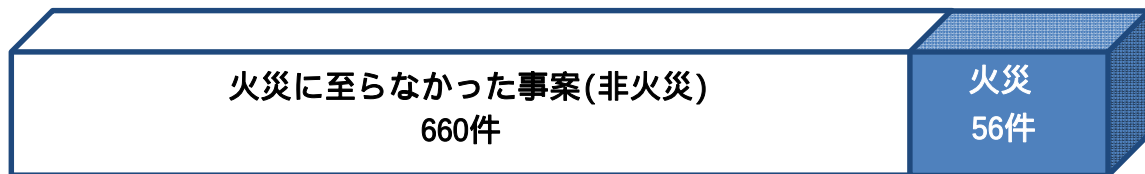
火災に係る消防隊の出動件数は716件で、このうち660件が火災に至らなかった事案「非火災」であった。

時間が経過すると火災になる危険が高かった非火災は29件であった。

また、火災になる危険が高かった非火災のうち、緊急通報システム「ホットライン119」によって自動覚知・自動通報され火災に至らなかった事案は4件であった。

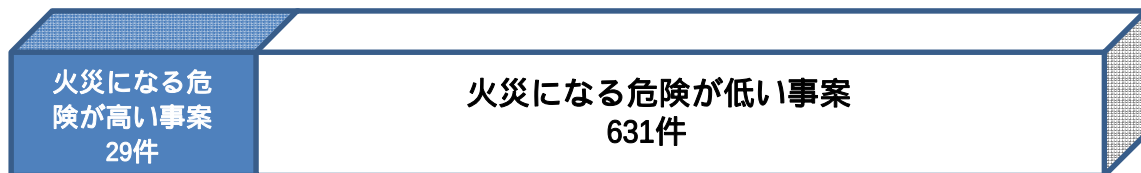
- 火災出動件数716件の内訳

【年】



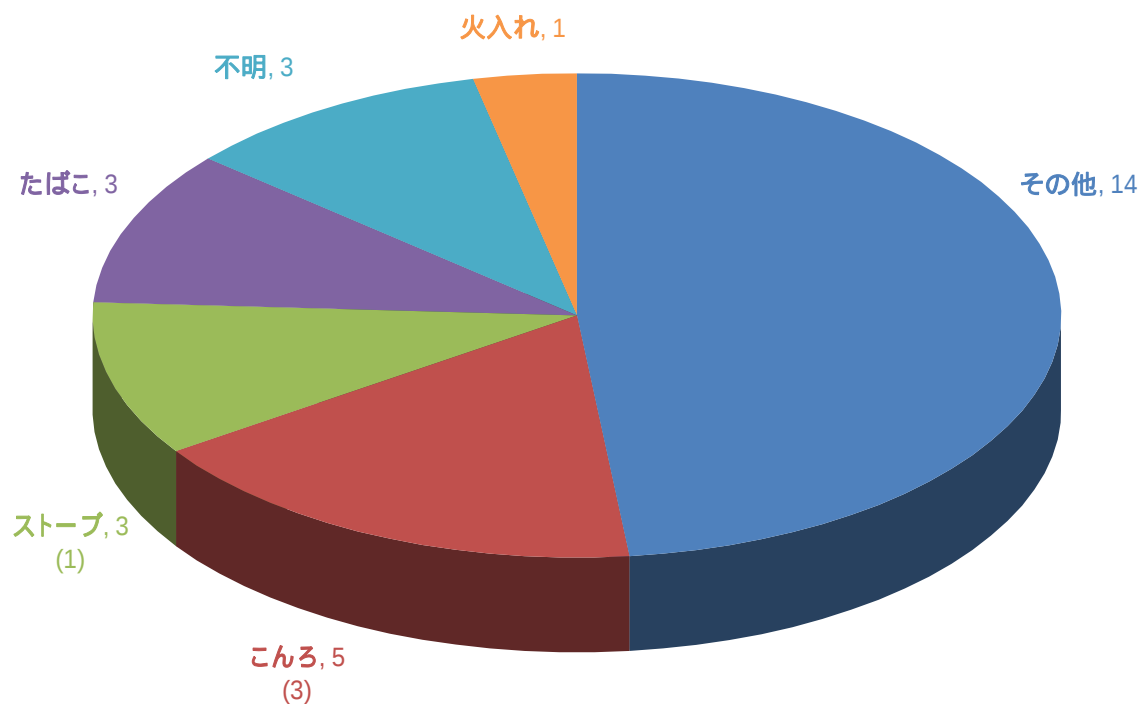
- 非火災件数660件の内訳

【年】



- 火災になる危険が高かった非火災の原因（29件の内訳）

【年】



()内の件数はホットライン119のセンサー等により自動覚知・自動通報された事案

住宅用火災警報器の設置状況

消防法の改正により，平成23年5月31日から住宅用火災警報器の設置が全住宅に義務付けられた。これに伴い，出火建物における住宅用火災警報器及び自動火災報知設備の設置の有無，発報(作動)の有無について，昨年と比較する形でまとめた。

建物火災にあっては44件あり，そのうち住宅用火災警報器の設置義務がある建物における火災件数は21件，自動火災報知設備が設置されている，又は設置義務がある建物における火災件数は6件となっている。

出火建物における住宅用火災警報器等の設置状況

(単位：件)

設置状況 (年)	住宅用火災警報器						自動火災報知設備						設置の有無が 不明	
	設置あり				設置なし		設置あり				設置なし			
	発報あり		発報なし (不明)				発報あり		発報なし					
	焼損程度		H29	H30	H29	H30	H29	H30	H29	H30	H29	H30	H29	H30
全 焼	1	-	-	1 (1)	2	4	-	-	-	1	-	-	4	2
半 焼	1	2	-	-	2	3	-	-	-	-	-	1	-	1
部分焼	1	3	2 (2)	1 (1)	8	4	4	-	-	-	-	-	2	-
ぼ や	3	1	2 (1)	1	1	1	3	2	1	2	-	-	1	-
合 計	6	6	4 (3)	3 (2)	13	12	7	2	1	3	-	1	7	3

()内の数値は，内数を表す。